

●今月の表紙●

今月の表紙は、1月号に続き、今年2回目の表紙を飾ることとなった、我が吉川ひとみちゃんだ！ 今月の「へらヤバ！」取材は、今シーズンも絶好調を維持している円良田湖。初めてのボート釣りに若干の不安を覚える取材班。しかし、ひとみは怒濤のイレバクを披露！



特集

この秋、日本屈指の岡釣り天国を見直そう!!  
 霞ヶ浦の余郷干拓地前、古渡川の真珠棚、西の洲干拓北水路、野田奈川、洲の野原、新利根川、導水路、ジャコ川、上の島新川

8 佐原向地 Part I

特集II

甲斐の古豪フィールド、ベストシーズン突入。  
 一足お先に、「湖上の粹人」が底釣りで決めた！

18 棚網 久の痛快野釣り!! in 千代田湖

第10回マルキュー代理店関東ブロック  
 わくわくフィッシングフェスティバル

188 ペアへら鮒釣り大会 野田幸手園

野の風景

- 4 砂沼(茨城県下妻市)
- 6 稻荷川(茨城県牛久市)
- 28 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出会い旅… へらぶな浪漫街道  
《第十一回》山形県・畑谷大沼
- 36 スーパーアングラー小池忠教のエサ合わせ大全  
《Vol.11》椎の木湖で100kgを目指せ!
- 42 大型狙いの楽釣宣言! 山内研作&生井澤 聡  
《第11回》高滝湖(千葉県市原市)
- 118 頑固一徹! 自分の釣りを貫き通す男  
《今月の釣り人》30年間手賀沼一筋に通い詰め 山室保夫さん
- 120 竹とともに生きる。  
《第3回》「至峰」作者 津田満雄
- 124 杉山達也のSPLASH BEAT II  
《Vol.11》苦戦。友部湯崎湖月例大会!!
- 130 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!」  
《Vol.11》都祭義晃の【ストレート浅タナ】!! 富里乃壠
- 134 熱血釣り女・吉川ひとみがいっく!「へらってヤバイわっ!!」  
《第17回》ひとみ、ボート釣り初挑戦!! 円良田湖  
 GUEST:石井旭舟さん
- 138 列島縦断 旅するカメラ  
《千葉県38》大多喜~勝浦方面 のぞみ野の池ほか
- 142 西日本川釣り紀行 北川穂積  
《第11回》芦田川(広島県福山市)
- 178 岡田 清 ディープサイドアングル Deep Side Angle  
《Vol.3》【パートナーシップ。】 羽生吉沼
- 186 野の風景  
中綱湖(長野県大町市)
- 190 釣りクラブ見参!  
《第49回》ダイヤモンドクラブ F.A吉羽園(埼玉県)
- 192 フィッシングレディ  
《今月のレディ》荒川直子さん 逆井HC(千葉県)

※「人物往来」「わが輩はへら」「対決モード1,2,3!」は  
 誌面の都合により休ませていただきます。

50 電話で突撃!! 関東近辺釣り場情報

★エリアレポート

- 52 背振ダム(福岡県) 河口正伸
- 54 河北潟(石川県) 山本一朗
- 55 釣堀センター菊水(和歌山県) 前田誠志
- 56 松野湖(岐阜県) 後藤 誠
- 58 あらいしのぶの始めてみようよ、へら鮒釣り♡  
《第7回》へら鮒釣りのラインって、どんなの♡♡♡♡
- 60 ガッツ小林が攻めまくる 若さとファイトの激釣記  
《第15回》フィッシングエリア吉羽園(埼玉県)
- 66 人間カーナビ稲毛利夫の実釣!野べら釣り歩き  
《第11回》莫大沼(茨城県大和村)、小野沼、寺前池(茨城県岩瀬町)
- 70 NHCスピリット  
《Vol.2》高橋秀樹 in 清遊湖 Part II
- 75 江成公隆のトーナメント、復活への道。  
《Vol.17》【田釣り両ダンゴ】復活への道!~ 伊藤洋一の常識③ in 精進湖(&三島湖?)
- 82 GOZYUKKAMI TREASURE HUNTER アマヤン 天野正由  
《その11》涼を求めて白樺湖 入間川&白樺湖
- 86 水辺のプラネタリウム 吉本亜土  
《今月の星空》「毛馬内盆踊り」
- 91 元気が出るへら鮒 西田美明  
《第11回》「元気なジジイ」の巻
- 94 最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 高橋謙司  
《第十話》「負けたらゴチよ♡ フロート杯争奪、天然ウナギ丼ナイター大会」
- 98 本誌イケイケ編集長が斬る! 業界のタブーに迫る!!  
《第8回》【どうしたらインストラクターになれるのか?】続編  
 御大・石井旭舟に直撃!③
- 102 野田幸手園新聞
- 104 ワクワク管理釣り場情報
- 108 小売店情報
- 146 旅するカメラ 取材番外 思い出話  
《第7回》車で突撃!? 四季折々
- 149 竹、合成竿を使用した 未開の釣り場 釣行記  
《その19》導水路(茨城県東町)
- 156 トーナメント速報 NHC/マルキュークラブ対抗予選
- 158 トピックス 家族釣りの祭典/サンラインビギナー講習会&ミニ大会
- ★へら鮒BOX
- 161 里ちゃんの新米編集長雑記
- 162 情報地獄ミミ
- 164 ボイス
- 170 新人モロちゃん奮闘記
- 171 プレゼント発表
- 172 釣果予想クイズ
- 175 広告索引
- 176 編集後記

この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

# 江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初、Web運動企画！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

〈Vol.17〉

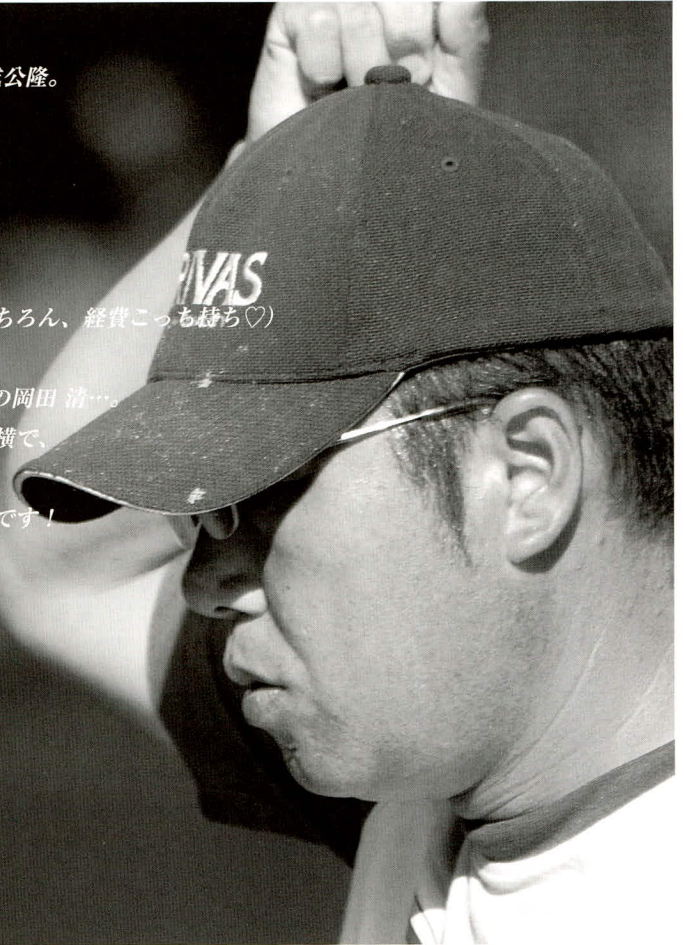
～【宙釣り両ダンゴ】復活への道！～

## 伊藤洋一の常識③

in 精進湖 (s西湖s三島湖?)

ますます白熱してきた宙釣り両ダンゴ編「伊藤洋一の常識」。  
「寡黙な巨星」伊藤洋一から、次々と真実を引き出していく江成公隆。  
深い深い、根っこの部分。  
江成が伊藤洋一から引き出そうとしているのは、まさにそこだ。  
自身の「あした」のために…。  
今回の取材は、精進湖、西湖に続き、三島湖で行われた。  
しかし、今月の原稿も、すでに精進湖の時に出来上がっていた。  
やっぱり、今月も追加取材は要らなかったんじゃないか！（もちろん、経費こっちは持ち♡）  
高島中央ロープに並んだ、伊藤、江成、里ちゃん、そして、  
「三島湖？ 行きてえ～！」と先月の西湖に続いて「付き添い」の岡田 浩…。  
ギャーギャーと喧しく三島湖を満喫してしまう里ちゃん&岡田の横で、  
伊藤&江成は深淵なる世界へと…。  
先月の西湖の時もそうでしたが、江成アニキ、気合入りまくります！  
(NHCでもやっちゃってます！)  
家庭崩壊カウントダウンと噂される中、  
徹夜で加筆訂正の嵐を拭き荒らし、  
最初原稿より格段に深～くなっておりますぞ！  
(本編で一切触れられない三島湖の様子は、末ページの写真でどうぞ…)

by 里ちゃん



ネオ・ベリシック。

江…いやあでも伊藤さん、今こうしてまとめてみたら、タナを作る位置(アタラせる位置)が一般とはちよっと違うというだけで(笑)、内容そのものはそんなに特別な組み合わせではないじゃないですか。でもやってみると凄く難しいって感じなんですよ。多分みんなそうだと思うんですね。それはなぜかっていうと、へらの活性の問題以前に、ピツタリ合うエサの幅が狭過ぎるんですよ(笑)、ナジミ際の釣りは。仮にウキのサインを見切ったとしても、いじり過ぎてエサが壊れるのがこわいんで、今度は思い通りにエサをいじれない。だつてあんまり練っちゃいけないってんですからねえ。戻して粘りは取れるにしても、半端な戻し具合では潰れた粒子が増えるだけだし…。じゃあ今度は配合比率を変えて作り直して事になるわけですが、イメージ通りのエサにならなかつたりするわけですよ。ちよどの所を行ったり来たり(笑)。指先の感覚っていうんですか？ これは熟練を要しますよねえ。  
伊…でもそれは「慣れ」じゃないの？  
江…でも、もう一つ問題がありまして(笑)。今日の僕だと、そうそう受けてくれないんです。と言うより、ナジミじゃうんですね。「ナジミ際の微妙な持ち具合をコントロール」という次元まで行ってないんです。出発点がもう、お話にならない(笑)。だから今日は、さっき御指摘を受けた「実は全然持たない」っていうのではなさそうです。しかもココ(藤蔵ロープ)のへらは素直らしく、ぶら下げておいてもアタつちやうんですよ。結構いいペースで釣れちゃってますしね。こうなつちやうと、みんなもう独習出来ないと思うんですよ…「今日はこんなもんか」ってなつちやうと、思うんです。今、隣で伊藤さんがその高い位置でのアタリで決めていなければ、多分今日の僕も気付かないままで一日終わつちやうと思うんですね。  
伊…そうかもしれないね。でも、それはそれで別にいいんじゃないの？ 必ずしも俺の釣りをマネしなくちゃいけないわけじゃないんだから。まあ、

「俺の釣りを盗む」というのが江成君の今日のテーマなら、一日気付かなかつたら問題だけだ(笑)。江：そりゃそうです。ただ僕も含めてですけど、一般的に伊藤さんのような早いタイミングでの釣りに、何層も言って申し訳ないんですけど(笑)、イケイケな特殊な釣りっていうふうには捉えられていないと思うんですよ。僕はさすがに分かってきましたけど、例えば管理釣り場なんかで状態がよければ今でもぶら下げてじっと待っていてもアタるケースってあるわけですよ。大型を釣りたければかえってそういう釣りの方がよかつたりして。だから今でもナジませる事に疑問や不満のない人達からすれば、「速攻」って「何を無理しちゃうてるの？」って捉えられちゃうてるかもしれないですよ。

伊：いやだから、俺は自分では「速攻」っていう認識じゃないんだって。

江：分かってますって(笑)。一般的な見方で話ですよ。今となっては「ナジませる」方がよほどへらの活性に頼った釣りだと感じます。でも多くの人には、そこに気付いてない。伊藤さんとしては、これは悔しいじゃないですか？

伊：まあ…ね。でも俺は何を言われても我慢してきましただけども。

江：僕なら我慢出来ませぬ(笑)。「ナジませ釣り」は、やっぱり基本だとは思ってます。でも「伊藤さんの釣り」を、特殊な釣りとは位置付けたくないんですよ。組み立てが一番自然で、理にかなってると感じるんです。やるのは難しいんで「入門用」にはならないとは思いますが、ある意味とても「基本的」ではあると思うんです。だから実は、「ナジませ釣り」の方こそ「基本」ではなく「入門用」なんじゃないかと。

伊：そこまで言ってくれると嬉しいね(笑)。でもあんまり大騒ぎしなくていいんだよ。ナジませ釣りに疑問を持った人がいたら、俺の釣りを参考のひとつにでもしてくれればいいなあと思うね。

江：伊藤さんがそう言うのなら、これ以上こういう話はしませんよ。でも原稿には盛り込みますからね。少なくとも伊藤さんの釣りに対する偏見(っ)だけは取り除いておきたいと思えますから…。

伊：ありがと(笑)。

で受けてチャッ」で釣れます。両方の釣り方で釣れてることは正解の幅が広いわけですが、今日のへらの状態がいいってことは間違いないんですが、この差はいつたい何なんだろうな(笑)。

伊：それぞれ釣りにってことだよ(笑)。

江：そりゃまあそうですね、何で伊藤さんのはそういう感じになるのかなあと思ってる…。

伊：こういうふうにして思うってやってるからですよ(笑)。それとも何？「無理しちゃうてる」ってこと？

江：いえいえ、それじゃ話が戻っちゃうですよ(笑)。でも、一般的には「そんなに受けるものなのか？」っていう印象じゃないでしょうか。こっちは「入っちゃう」のにどういう事よ？みたいな(笑)。

伊：俺から言わせりゃ、「何でそんなに入っちゃうてるの？」って感じだよ(笑)。

江：そうなんですよ。うーん、今僕が使ってるエサも結構軟らかいとは思ってますよ。打ち返しのテンポだっけで負けてないと思います(笑)。仕掛けだっけでそんなに差はないと思います。

伊：無理解してるつもりはないけど、俺の釣りはたいてい「受け」は出るよ。ナジミはあんまり出ないけど(笑)。

江：ですよ。それでなければ伊藤さん自身でも基本に成り得ないわけですからね。きつと「受け」を出させるテクニクとかセッティングとか色々あるんでしょう！ いよいよそこへんの話へ突入しますか？！

伊：その前に(笑)、大割ロープへ移動しようよ。風も強くなってきたし(ニヤリ)。

江：了解です！

## 真相の証明。

江：伊藤さん！ やっぱ大割のへらはズルいすねえ！ 上にはいっばいいますよ、いくらでも全然タナまで追って来ないんですよ。

伊：ぶら下げたいてもアタらないでしょ？

江：ええ、見事に(笑)。

伊：でも俺、イレバク(笑)。

江：「見事な」ですね。まさにブツギリとはこの事です！

伊：生意気言ってもいい？ 俺、全然本気じゃないよ、まだ(笑)。

江：全然OKです！ これですよ、コレ！ この展開！ こうじゃなきゃ勉強にならないってもんです！

伊：いいねえ！ その心意気！

江：いや、マジでいつもこのパターンなんです。追わないから「受けないから、エサをどんどんアマクしていつっちゃうんですよ。そのうちに上から下までへらでグチャグチャになって、きちんと狙ったタナに集魚出来ず糸ズレだけは出まくりという最悪の展開だったわけですよ、これは伊藤さんの分析ですけど(笑)。で、結局全然釣れなくなると、「無理タナ」だったって結論になるんですよ(笑)。

伊：実際に今日なんか無理タナだらうね。釣果ノートを見たって短竿の浅いタナで何十キロって上がってるんだからさ、何も18尺いっばいなんて打つ必要はないんだよ。水面にもへらが見えるくらいだし(笑)。

江：やっぱり「無理タナ」っていう判断は間違いないんですよ。そんな中でも伊藤さんはイレバクなんぞどうしようもないですけど(笑)。

伊：俺はこういう長竿の深宙は好きだけどね(笑)。へら上げて釣るよりも受けが出やすいわけだからさ、決める事が出来ればアタるタイミングがどんどん早くなるからね。

江：その理想は僕も持ってましたよ。でも、そううまくいかなかったんですよ…！

伊：ちなみに今日は、無理タナと言っても、全く釣りにならないわけじゃない。むしろ俺には好都合な状態。

江：くう！ だからやっぱりイレバク…参りました！ ちなみに、今までの僕だったところってどう感じるかってところをひとつ。「こんな状態で受けさせて釣れるなんて、そっちはへらの状態がいいに決まってるよ！」って感じですかね(笑)。

伊：普通はそう感じるんだらうなあ。でも江成君も言ったよね、渋くねばなる程高い位置からの一発取りになるって。ナジミ込みの途中の方が、へらはいいい反応をするもんだよ。だから、食いがいい時だけの釣り方でもなんでもなくて、わりといつでも通じる釣りなんだよ。

江：それは分かってたんですよ。渋ってくれば動いているものにしか興味を示さない、と。自然落下だし。僕の固形チックな論法でいっても、なるべく早い段階の方がバラけてないので固形に近いです。ホントにいつでも通じるタイミングではあると思うんですよ。そう思うからこそ、伊藤さんの釣りが「基本的」だと感じたわけ。

伊：だけと無意識にナジませてしまっ、と？

江：無意識なのかもしれないね。一番反応がある苦のタイミングでアタらないんですから。抑えちゃうてるんでしょうね。特に何かをしているつもりはないんですが…。

伊：…。江成君さ、さっきからウキの動きを見てるんだけど、重いエサ入ってるネ？

江：ええ、「へらスイミー」が少々…。

伊：何で？

江：え？ いや、その…。

伊：まさか深いタナだから、「とりあえず何となく」ってな理由じゃあないだらうね？

江：自分としては「ハリ切れ」を考えての選択だったんですけど、伊藤さんの言うように「何となく」無意識に部分もあるかもしれない…正直な話。

伊：そうか。 「ナジませ釣り」の呪縛だね、まさに。ナジんでアタるんだらきつと理想の動きだもんなあ、それ。

江：そうですね。

伊：だっけある程度上からサワっていったって、いい感じ？ ナジむじゃない(笑)。そこでドン！とアタれば最高じゃ？

江：でもアタらない(笑)。藤蔵ロープではこのエサでも釣れたんですが…。



伊..なんだ、さっきもそのエサだったんだ。だから江成君のはナジんじゃったんだ。でもあつちらは流れてつきやういでしょ、わりと活性の高いへらが居着くポイントだから釣れてたんだね。  
江..ですよね。でも「ハリ切れ」を考えてたのはホントです。早いタイミングでの釣りなんで、クラブった時の事を考えて。  
伊..肝心の「追い」がなくなっちゃったら意味がないでしょう？ それに、キチンと「食い頃」になつてアワせていれば、ハリ切れの悪さによるエサの舞い上がりはないんじゃないか？ 究極を言えは。  
江..そうでしたよね（笑）。やっぱり無意識の中で「怖い」んじゃないかね、高い位置でのアタリが。取り続けていくと実はそうそう続かないって感じていた筈だったんですがねえ...  
伊..とにかく、今日の江成君と俺との大きな違いはエサだね。ウキの動き方やオモリ負荷、それにハリスの長さもたいして違わないんだから。  
江..エサの重さって大事ですよ、やっぱり（笑）。  
伊..だけでもう一度言っておくよ！ 確かに軽めエサが正解である事は多いけど、いつでも軽めじゃない。「軽いから受ける」っていう認識は危険なんだよ。あくまでも「合っているエサが受ける」ってことだね。へらの状態を見極めることだね。

江..実際に今日は「軽め」が正解のようですが、キモに命じておきます（笑）。ところで伊藤さんが重いエサを使うのって、どういうケースエサにですか？ 伊藤さんにとって完璧に合ったエサには、理論上ハリ切れの問題はないわけですし、「抑える」っていうイメージは伊藤さんの釣りに当てはまらないような気がするんですが...  
伊..そんな事はないよ（笑）。それじゃいつでも軽いエサを使うみたいじゃん。さっき言ったけど、たくさん寄せるのが俺の釣りのキモではないんだよ。どっちかって言うと、たくさん寄らない方がいい。それはなぜかっていうと、「いいエサ」が「持たなくなる」からなんだよ。タナで食い頃に寄るギリギリのエサが使えなくなるってこと。へらに蹴飛ばされてね。  
江..なるほど、「軟らかいエサ」が理論を組み立てる上でのベースだから、そこで硬くするとかかっていう発想にはならないわけですね（笑）。面白いなあ...寄せ過ぎないっていう事自体は、一般的なナジませ釣りでも言われている事ですよ。僕は寄せ過ぎちゃうのは大好きですが（笑）。  
伊..ハハハ、短バリスかい？ その釣りは置いとこう（笑）。で、だから俺が重いエサを使うっていうのは、寄りをセーブしたい時。しごく一般的な理由だよ（笑）。ただ、ひとつ注意しておきたいのは、最初から重いエサをぶら下げておいて

も寄つて来てくれるへらだけを相手にするっていう意識ではないってこと。あくまでも「一般的なベレ田」なんかとは区別しておいて欲しいね。例えば今日の江成君の釣りでいけば、上から結構いい感じでサワっているのを受け切るわけでもなく、ナジんでしまふわけだね。つまり「追い切れてない」わけだ。そこまで重くしちゃったらやり過ぎなんだけど、方向としてはそれでいい（笑）。つまりエサの重さで、追えるへらと追えないへらの選別をするわけ。重いと追えなくなるってことは、ギリギリのエサに手を？ 出さずに見送ってられるってこと。そんなイメージだね。  
江..なるほど、伊藤さんのこだわりが感じられるコメントですが（笑）、手直しとか微調整っていう部分でやる事だけ見れば、やっぱりモノ凄く基本的っていうか一般的っていうか、おそらくナジませ釣りがベースの人にとっても全く違和感がないと思うんですよ。  
伊..そうだよ。  
江..でも、そこが実は落とし穴なんだと思いますね（笑）。似ているからこそ理解しづらい、と。独習していると、自分の釣りにいつても戻れちゃうんですよ（笑）。ケジメがつかないんです。  
伊..そうなのかなあ。  
江..とりあえずエサを作り替えますんで、そのままいレバクしてて下さい（笑）。

競技派からのんびり派まで、すべての釣り人に使って欲しい...

へら浮子

杉山作

浅ダナスタイル  
【パートI・パートII・ワイド・ムク】  
(各1本4,500円)

フリースタイル  
深宙スタイル  
(各1本5,000円)



取り扱い店〈五十音順〉

埼玉・越谷 かわせみ (☎048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (☎0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (☎03-3499-5025)  
埼玉・入間 三水堂つり具店 (☎042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその (☎0285-72-2215) 神奈川・川崎 崎仙人 (☎044-287-7470)  
東京・吉祥寺 丸勝 (☎0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (☎0428-22-2467)



江：伊藤さん、「へらスイミー」を抜いたら俄然動きが変わってきましたよ。お騒がせしました(笑)。

伊：重くする必要なんてなかったでしょ？

江：ええ。でも伊藤さん、受けはかなり出るようになりまして、まだ通過しちゃう事があるんですよ。エサの重さだけじゃなかったみたいですね。

伊：うーん、それくらいいいんじゃない？今まで喋ってきたことをひっくり返すようで悪いけど、受けながらアタラなかつた時はいくらかナジミが出るくらいでちょうどいいって感じるんだよね(笑)、最近ほ。

江：そうなんですか？

伊：うん。その方が続くね。完璧には合わせない方がいいんだよ。打ち出しもナジませるって言ったけど、同じ理由。一度ボケるとキツいんだよ。

江：それにしても伊藤さんのよりは明らかに通過する事が多いと思いますんで、やっぱり何かが違うと思います。全く同じ状態にしようなんて生意気なかも知れませんが、そこを指摘していかないと勉強にならないで。

伊：じゃあもう少し頑張ってみたら(笑)。ヒントは、俺のエサと江成君のエサとの、食い頃になるタイミングの違いだろうね。

江：それしかないですよ。エサの軟らかさの違いなのかな。あー！伊藤さん、今日まだ一度もエサ触らせてもらってませんよ。ポートだから無理か。ああ！その前にブレンドも聞いてませんでしたよ！

伊：そだね(笑)。でも、俺の釣りと完全に比較するために、江成君はわざと聞かないのと同じって。根性あるなあと。思ってたよ。

江：そんなつもりじゃなかったんですけど、水見るとダメなんです(笑)。

伊：そだね(笑)。ちなみに今日は、「ベリック」と「ミッド」と「魔法の粉」ね。

江：すいません伊藤さん、ミッドってどんなエサなんですか？使ったことないんで…。

伊：結構開くよ。粒子が立っててざっくりした感

じかな。「ベリック」との割合を変えて様子を見るにはいいと思うけど。

江：そういう感じのエサですか。今僕のは、「ベリック」と「スーパード」と「魔法の粉」なんですけど、どうでしょう？

伊：いいんじゃないの？雰囲気似てると思うけど(笑)。

江：すいません(笑)。今は半々くらいですか？

伊：そだね、麩の割合は。「粉」は結構入ってるけど。でもやっぱりここから先はそれぞれの釣りだよ。今俺が使ってるエサを江成君に渡したところと同じ動きになるとは思わないし、江成君だつてそう思うでしょ？

江：はい。先生と基エサが違うという大失敗を犯してしまいました(笑)、これはあえて勉強という事にします。仮に同じ基エサだつたとしても、軟らかさも全然違うでしょう！って、触れば済む話ですが(笑)。それは出来ないで、これも勉強という事で(笑)。

伊：ちよつと面白いよね、こんな不真面目な生徒見た事ない(笑)。でもとりあえず、江成君のには軟らかいと思えるエサを打っているんですよ？

江：ええ、伊藤さんのエサをイメージした軟らかさです。しかも「最近ほ」少ししつかりめっていう微妙なイメージで(笑)。伊藤さんのエサよりは硬いかもしませんが、そだねとして「魔法の粉」の量を減らせば何とか辻褃合いますよ。

伊：そだね。タナまで持って食い頃になればそれでいいだからね。江成君だつて俺をイメージした「軟らかさ」って言うてるくらいだから、間違つても「硬い」ってわけじゃないだろうし、多少俺の方が軟らかかつたとしたって大差ないでしょう。全然練らないんだからね。

江：全く練ってません？

伊：うん。江成君、練ってるの？

江：いえ、練ってないんですけど、いじってるうちに麩の粒子が潰れてきちゃうんですよ。持ち過ぎだとしてらこれ原因だと思ってるんですが、伊藤さんだつていじり倒す方ですよ？

伊：確かに手直しはするよ。でも昔よりは減つたね。だつてやっぱり「練らない」のが時代のタッチだからね。いじればいじる程壊れちゃうよ。

江：そうなんですか？

伊：うん。ベリック製品では経時変化を極力少なくするような製品作りを心掛けてはいるけど、手直しっていうのはそういう次元じゃないから。どんなに慎重な掻き混ぜ方をしたつて、麩を潰してしまうのを避けられないもの。

江：伊藤さんでもそうなんですね。ところで一度に作る量も減りました？

伊：減つた減つた(笑)。悔しいけど、ダメなエサは修正が難しい時代になったよ。ホラ、このくらいです。

江：うわつ、そんなに少ないんですか！

伊：だけどちよつと前まではもつとガンガンいじつたよ。それはなぜかという、もつともつとエサが軟らかかつたからね。追い足しても、水分が多くて抵抗が少ないから麩が潰れにくいんだよ。

江：それ、何気にもの凄くハイレベルなコメントのような気がしますね(笑)。しかも伊藤さんのエサの軟らかさをかなり明確にイメージさせることが出来ますし。

伊：そう。俺も江成君が今使っているエサの「硬さ」はイメージ出来たけど。間違ひなく「極軟」じゃないって(笑)。

江：あれ。でも粘り過ぎ！持ち過ぎで判断で良かったんでしたっけ？ピンポンで無くなつちゃう蓋でしたよね？

伊：ああ、さつきは「極軟」のエサの話のもりだつたんだよ。江成君が俺のエサは「軟らかい軟らかい」って言うもんだからさ(笑)。でも、ケースバイケースって言ったよね？

江：そうでした。

伊：今日なんかは無理タナ気味だから、合わないエサへの反応が鈍いってのもあるんじゃないかな。だから入っていつっちゃうのかも。しつかり俺なんかは、本来使いたいタッチよりはしつかりこのエサを使うためにそうなるのになつて感じるところだね。完全に合わせない！合つてないエサを使うってこと。

江：なるほど。通過しちゃう時でもしつかりエサの力タチが残っているのかもしれないね。その証拠に、へらスイミーを抜いたら、ぶら下げて待たせてもアタつて釣れるんですよ(笑)。

伊：待つちやダメだよ！どどん受けなくな

つちゃうよ。地合が壊れちゃう。

江：はい！でも実験つてて見逃して下さい(笑)。

伊：最近では「ややしつかりめ」だつてさつきから言つては、分かつてると思うけど、粘りではなく「硬さ」の度合いの話だよ。水分量のこと。最近ほあまり上からバラけちゃうとダメなんだね。いくら魔法の粉を多くして開きを止めようとしても、極端に軟らかいエサでは限界があるから。

江：それを聞いて安心しました。少し前から別のブレンドを試してみして、実は思ったより硬く仕上がつちやたんですよ。でも通過は減りましたし、釣れるペースも上がつちやたんですよ(笑)。少々硬くても、タナで食い頃になれば何の問題もないわけですよ？軟らかくするための手水も打たなかつたくらいで、全く練つてないわけですから。

伊：その通り。でも、そのエサを一段軟らかくするとしたら、魔法の粉の量が少なくなつたと言えるだろうね(笑)。ところで、江成君は「グルぶま」が好きだつたんだよ？

江：ええ。今でも好きですが(笑)、伊藤さんや小池さんが使つてるのは読んだことないですね。いつも「軽いだんご」や「本かつつけ」でしたよね。その前は「タテジマ」や「ゴールド1000」とか(笑)。

伊：知つてるねえ(笑)。でもふまつげんがなくなる最後の方は、「バラケル」がメインだつたんだけど、江成君その頃は読んでないんだ(笑)。釣りになかつた時期なんだろうね、きつと。

江：そうかもしれないですね(笑)。でも「L」メインってことは、魔法の粉あつての話ですよ？

伊：勿論だよ。練つて持たせたエサではカラツンに対応出来なくなつてきたわけだから、練らずに持たせることが出来る魔法の粉は画期的だつたよ。

江：伊藤さんのエサ使いの歴史を見ても、練つて使うエサから、練らなくてもそこそこ粘る素材へ移行していつて、ついに粉にたどりついたつてのが見て取れますね(笑)。

伊：でも伊藤さん、当初あの粘りは抵抗ありましたねえ。「何じゃこりゃー」って(笑)。

けじゃないからね。かえってそのギャップに指先がびっくりしちゃうよね。

江..え〜って言うくらいに粘るけど、粒子を殺してないから、魚がサワった時にはびっくりするほど良く開くんですよ。確かに伊藤さんの言うように、指先の感覚と持ち具合のギャップが嫌で、最初はあまり使ってたんですけど、でも「練習の時のエサの表面だけボソッ気を足したところ、根本的にカラツンは解消出来なくなってきた」と思った時、魔法の粉の必要性に気付きましたね。開き重視で練らないボソをタナまで入れようと思ったら、それまでならガチガチの硬ボソしかないわけですから。

伊..そうだね。しかも硬ボソで追わせる釣りは、ギリギリでの芯残りが怪しい(笑)。見てると口まわりのスレが多いもんな。もちろんキチンと合わせる人もいるんだろうけど、野釣りなんかでスレ有りだから別に気にしないって人が結構いるよね。だけどエサ合わせのプロセスって、やっぱり食わせようと思ってみんな一生懸命やっていると、うんだよね。なにスレで満足しちゃったら進歩がないっていうか、面白くないじゃない、そんなの。最後の最後で楽しみを放棄しちゃってるよ。だいたい、管理釣り場はどうすんだよっての!

江..おっと! だいたい伊藤さんが熱くなってきたよ!  
伊..いや、別に熱くなっちゃいないんだけどさ(笑)。でもホントに魔法の粉は凄いわ。ギリギリで持つか持たないかっていうエサを作る時の、タナまで持たせるための接着剤っていう言い方をよくするけど、芯残りも勿論キチンとあるもんね。アマ目のエサでも安心して攻められるっていうかさ。

江..それは僕も感じてましたね。エサがかなり小さくなっても、ハリのおとところについてまで残っているような。例えば底釣りでもないのに、エサ落ち寸前でのアタリで拾える率が上がったように、エサがしますね。金バリエ効果とかではなくて(笑)。伊..うん! だけどいつもそんなに待ってるわけじゃないよね(笑)!

江..もちろんですよ(笑)。新しくエサを作っていたり、バラソルを出していたりと、そういう時に偶然見ちゃったんです。それ以来、量は少なくなるともだいたいいつも入ってます。「グルふま」

を使う時でさえ入れてましたから(笑)。伊..それは凄いわ(笑)。でも、今の釣りに「グルふま」はあんまり必要ないんじゃないの? 今求められているのは、そういう芯残りじゃないでしょう? だから今のところベシックでは似たようなエサを作らないんだけど...

江..そうみたいですね。でも「好き」なんです。浅いタナの短バリスの釣りで、強引に僕のバッテリーに持っていく時には外せないですね、やっぱり。エサもかなり軟らかいのを打ちますから、問題ないって言うか。チャカなんかはもともと食い頃になってるエサを打つって感じですし...今は「軽グル」を使ってるんですけど。

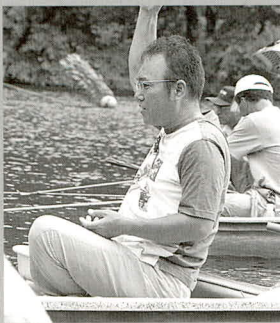
伊..人それぞれ好みだからね。でも、今や大きい芯はカラツンの元だからね。それに、深いタナなんかで芯の大きさを持たせようと思った時に無理が出る。  
江..今の時代にへらが求めているのは、タナまで持つけど必要以上には持たないエサ。だからといって上からバラけちゃうエサじゃあない。ここで「粉」の出番ってわけですよ。へらがサワってどんどん食い頃になっていくためには、芯の粒子が生きていて芯の小さいエサでないと、蹴飛ばされて芯ごとハリ抜けしてしまう可能性もあります。つまり芯の大きいエサは、「ただのピンポン」になっちゃう危険性があるってことですよ。ピンポンされつつも入っていくというかが下がっていかないとイケないわけ。

伊..分かってるじゃん(笑)。そうそう、上から抜け過ぎは困るんだよ。中途半端なネバリの麩で組み立てた「しっとりネバボン」みたいなのが一番やっかい。江成君みたいな迷路にはまりやすいからね。それに芯が小さくなっていくのはいいんだけど、肝心のところで「ない」のは困るし。で、「粉」なんだよね。

江..「抜かせて入れる」ってやつは現代版っていうんでしょかね、伊藤さんの釣りは。「粉」を使うことで、抜く位置が一般的なものも凝縮されているっていう意味で。  
伊..そうだね。俺の場合、「入れる」って言うても落下中のタナの事だけさ(笑)。

〈以下、次号に続く!〉

### 〈オマケ〉 取材風景 (?) in 三島湖・高島中央ロープ (9月4日)



かなり厳しい釣況だった当日の三島湖。長竿はマイチで、短竿のチョーチン、浅タナにアタリが多かった。  
伊藤はチョーチン両タナゴで徐々に竿を短くしていきながら、50枚でフツチキリ。  
江成は長竿で大ゴケをこままし、終盤、チャカチョーチン、浅タナで食い下がり、30枚。  
お疲れモードの岡田は、お昼タイムが効いて20枚。しかし、カウント外の納竿間際、浅タナで怒濤のイレバクを決めていた。  
江成はこの日も伊藤の釣りに大いに感銘を受けた模様で、興奮しきり。それは、まだまだ続く「伊藤洋一の常識」で、明らかにされていくはずだ。



よそ見をしている際に、竿が流された。焦る江成。一目散にボートを漕ぎ、回収成功。「よかった〜! この竿、高かったんだよ〜!」その背中に、サラリーマンの哀愁が漂う...



必殺(?)、ハリスジコジーコ炸裂の江成...現場結びとは、仕事、忙しいんですね。



Deep Side Angle in 三島湖!? 月末に行われる「Neo ヘラ」の試釣も兼ね、今月も伊藤洋一の釣りを見たいと三島湖にやってきた岡田 清。「鶏匠」閉店後、一睡もせずに車に飛び乗った。が、やはり、チョーチン、浅タナ...と、自分の釣りに没頭(笑)。右膝も、しっかりと立っている。そして、伊藤から「今度トロ巻き教えてね」と言われ、大いに恐縮していた。

「うひょ〜!」...三島湖の強引に酔う江成。この笑顔の影で、家族は泣いている...(!?)。

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける...

# へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

No.455  
Nov.2003

# 11

特集

# 佐原

# 向地

PART I

この秋、日本屈指の岡釣り天国を見直そう!!

特集II

甲斐の古豪フィールド、ベストシーズン突入。  
一定お先に、「湖上の幹人」が底釣りで決めた!

# 棚網

# 久の

# 野釣り!!

in

# 千代田湖



絶好調連載中!

吉川ひとみの  
へら鮎でヤバイわっ!



ボート釣り初挑戦。秋の湖で大暴れ!?

# 吉川ひとみin円良田湖!

定価

1000円

本体九五二円

# 両グル、開幕。 開くグルテンで、 大型を狙い撃つ!!

新べらシーズンも、そろそろ。  
両グルでの大釣りに、期待は高まる。  
攻撃的な釣りが持ち味の杉山達也は、この時期、  
開くタイプのグルテンをセレクトする。  
活性のある大型を効率よく寄せられる、マッシュの抜けの速さ。  
そして、大型の寄りにも負けることなく、  
食わせるチャンスを生み出せる、  
グルテン繊維のハリ残りを重視するためだ。  
今年、春の本誌取材で、  
108枚、82.38kgを叩き出した「新べらグルテン」をメインに、  
杉山は、バラけるグルテンで、攻めの釣りを貫くのだ。

## 両グルでの宙釣りに!

ボソでヌケがよく、集魚性が抜群。両グルの宙釣りに威力を発揮します。軽いタイプだから、放流後の新べら狙いにも効果的。大型から中型まで、作り方ひとつで幅広く対応できます。ブレンド性もいいので、川やダム湖での野釣りにもおすすめです。

●新べらグルテン ¥550



## 適度な重さの底釣り専用!

「新べらグルテン」のボソタッチを生かしながら、重さを加えた底釣りタイプのグルテン。マッシュのヌケがよく、適度な重さで、底にへらを落ち着かせます。新べら狙いや大型狙いに効果的。野釣りの底釣りにも。

●新べらグルテン底 ¥600



## 練ることで膨らみを調整可能!

抜群に軽いから、ゆっくり落とし込むことができ、低活性の魚に効果的。膨らみが速く、そのタイミングは練ることで調整可能。繊維がしっかり残るので、待つ釣りにも使えます。宙から底まで幅広く対応。他のグルテンエサとの相性も抜群です。

●ぶにグル ¥500



つれるエサブリ一筋  
**丸マルキュー**  
http://www.marukyu.com/

本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤塚2-4 〒363-8509  
TEL:(048)728-0909(代) FAX:(048)728-3909  
大阪支店 大阪府寝屋川市桶根南町12-14 〒572-0811  
TEL:(072)824-0909(代) FAX:(072)825-0909

四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 〒762-0053  
TEL:(0877)44-0909(代) FAX:(0877)44-3909  
九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 〒841-0023  
TEL:(0942)82-0909(代) FAX:(0942)83-0909

釣り場でエサに困ったら  
iモード・ホームページ  
http://www.marukyu.com/i

